

# まちかど・ズームIN!

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

## 患者さん中心の病院に

刈田病院安全祈願祭・起工式



平成14年春に開業する新公立刈田総合病院の安全祈願祭と起工式が8月28日、移転先の福岡蔵本地内で行われました。

式典には病院を運営する白石市外二町組合や東北大学医学部、工事関係者など約120人が出席して、くわ入れなどの神事を行い、工事の安全を祈願しました。続いて、病院管理者の川井市長が「市民・町民が満足できる治療を提供できるような病院にしたい」とあいさつしました。

## 自然を満喫し、力走、



## 第14回みやぎ蔵王高原マラソン

初秋の蔵王山ろくを走る第14回みやぎ蔵王高原マラソン大会が9月15日、国立南蔵王青少年野営場を発着点とするコースで行われました。

今年の大会には県内をはじめ、遠くは青森県や島根県などから、小学1年生から85歳までのマラソン愛好者738人が参加。親子ペアなどの3キロコースから最長の20キロコースまでの4部門を男女別年齢別に分かれ、標高600メートルの起伏の激しいコースを力走しました。



## 高齢者にやさしいまちに

老眼鏡を寄贈



9月13日、メガネの相沢白石セラビ店の小島店長が市役所を訪れ、老眼鏡20組を市へ寄贈しました。

セラビ店では平成6年から毎年、老眼鏡の贈呈を続けています。川井市長に目録などを手渡した小島店長は「これからも高齢者に優しい地域づくりに貢献していきたい」と話していました。

この老眼鏡は、白石市社会福祉協議会を通して、市内の高齢者などに贈られる予定です。

## 白石の昔がわかる

古文書展とお月見

白石に残る貴重な古文書を展示する古文書展が9月12日から24日まで、片倉家中武家屋敷「旧小関家」で開催されました。今回展示された古文書は、奥羽盛衰見聞誌など明治維新時の資料や武藤家の古文書などです。

また、9月12日には月見の展示が行われ、縁側には食生活改善推進員が作った月見団子やクリなどが供えられ、見学者はしばし足を止めて十五夜の風情を楽しんでいました。



## お年寄りを大切に

西益岡あじさいの会

西益岡地区の民生委員や主婦などで構成するボランティアグループ「あじさいの会」の皆さんが、西益岡自治会館で9月13日、地域のお年寄りを招待して「お楽しみ会」を開きました。



敬老会を兼ねて行われた今回のお楽しみ会は今年3回目の開催。参加した約30人のお年寄り、会員の手作り料理をいただいたあと、カラオケで自慢ののどを披露するなど、楽しいひとときを過ごしました。

## さらなる防火を誓う

消防団員に作業服を貸与



市役所で8月22日、白石市から約700人の白石市消防団員に作業着、ヘルメット、長靴など消防団用作業服一式が貸与されました。貸与された作業服は今後、従来からの法被と併用して着用されることになります。

貸与を受けて、志村新一郎消防団長が「長く大切にに使わせていただきます。これを機会に団の活動に精進努力します」とお礼の言葉を述べました。

## 友情を大切に

海老名市と少年野球で交流



白石市と海老名市との少年野球による交流が8月25日から27日にかけて行われました。これは、両市の少年野球チームが毎年1回ずつお互いに相手を訪れ、ホームステイをしながら交流試合を行っているもので、今年で9年目となります。

交流試合は、26日に益岡公園野球場で行われ、白川少年野球クラブの小松優基くんの選手宣誓を受けてスタート。両市とも選抜された1チーム13人による2チームが試合を行いました。10月7日から9日には、海老名市を会場に交流が行われます。

八月二十四日、自由民主党本部七 一号室で、「三宅島・新島・神津島における地震・火山活動について」という特別対策委員会がもたれ、全国知事会代表石川静岡県知事、全国市長会副会長である私、そして東京都町村会会長の青木日の出町長が招集を受けた。

その中で石川静岡県知事からは、「阪神・淡路大震災があった平成七年に地震防災対策特別措置法が設置されたが、平成十三年三月三十一日で期限切れとなる。引き続き国の負担又は補助の特例措置の適用期間を延長するとともに、地震防災対策の充実・強化が図られるよう」要望があった。

次は私の番であったが、「昭和五十三年六月十一日の宮城県沖地震では、当市においても死者二名という犠牲者が出た。百万都市仙台のど真ん中を長町・利府活断層が貫いている。福

島盆地は活断層の巣であり、その延伸が白石活断層に伸びている。一七三一年に白石城の石垣が崩れ大きな被害を被つたのは、白石活断層の活動であると言われる。活動周期が一千年以上と言われてしばらくは安全だろうが、決して警戒を怠ってはならない。

## 川井市長のせせらぎトーク



## 火山・地震と首都機能移転

それよりも噴火、地震が当地方においては問題である。最近、磐梯山がどうも怪しくなってきた。蔵王山を見ると、一六二三年に噴火し、さらに一八二一年に噴火している。二百年周期ということを考えて、いつ噴火してもおかしくない。都市自治体を預かるものとして地域住民の生命

財産を守るといことは最大の責務である(諸先生方から拍手あり)。このような事情を鑑みて、地震防災対策特別措置法の国の負担又は補助の適用期間の延長について、諸先生方の特段のご配慮を賜りたい」とお願いした。この後で青木町長が伊豆諸島のことについて要望したが、メンバーの一人である東京都の石川要三衆議院議員から「国への要望だけではなく、県なり市町村ではこれについて一体どのような対応をしているのか」という厳しい質問があった。

これについて私は、「当市においては、白石活断層の調査を平成七年に国土庁及び県にお願いしております。また、東北初の全面免震構造の公立病院の起工式を八月二十八日に行いますが、傷ついたり市民の収容場所として最も有効です。なお、市内の学校のほとんどを新築はもちろんです。大規模改修も耐震構造にいたしました。避難場所として有効活用するつもりです。活断層の所在が明確になれば、その両側十五メートルの間で亀裂あるいは段差がでやすく、この間の建物の崩壊などがあると聞いておりますので、ロサンゼルスあ

るいは横須賀市に倣い、最も厳しい建築規制を設けるつもりです。」

同じく東京都の保坂三蔵参議院議員は、実際に三宅島の火山灰をボトルに入れて持ってきて対策の必要性を論ぜられたが、最後に私の方を見てにやと笑い、「なお蛇足ながら、静岡県知事から聞いて東海地区は非常に災害を受けやすい地域であることが分かった。東北は大丈夫と思っていたら、川井市長の話や聞くとなかなか危険な場所である。やっぱり首都機能は移転すべきでない。東京に置くべきだ。」と述べられ、満場爆笑した。

終了後、保坂先生、ちよつとあれはひどいじゃないですか。」と私が言ったら、にやにや笑って、「君のことは遠藤要三先生が委員長だった頃、部屋にしょっちゅう行って知っているよ。首都機能移転のフォーラム時に東京まで来てパネラーなどになって、結構PRしてたじゃないか。テレビでちゃんと見てるからね。その時のしつぽ返したと思ってくれ。」と、呵呵(かか)大笑して場を去られた。

お面一本という感じだった。